

# 学生による授業評価

仲 隆  
Takashi Naka

九州産業大学情報科学部知能情報学科  
Department of Intelligent Informatics, Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University  
naka@is.kyusan-u.ac.jp, <http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~naka/>

## 1. はじめに

教員による授業改善の方策として、平成14年度前期に情報科学部専門科目に対して以下に示す学生による授業評価を実施した。本稿では、その実施内容と結果の概要を報告する。

## 2. 概要

目標とする授業の満たすべき項目として以下を設定した。

- 学生が理解できること
- 学生に興味を持たせること

授業が履修ガイドの講義概要（シラバス）に沿って行われていることを前提とする。これらの目標を達成する方法として、以下の目標達成のために教員が操作可能な項目を設定した。

- 話し方
- 速度
- 熱意
- 学生参加
- 静粛性への配慮
- 板書/スライド
- 教え方

授業内容も教員が操作可能な項目であるが、学生による評価は困難なので除外する。これらの各項目に関する質問紙法による調査を学生に対して定期的・継続的にを行い、

- 各授業各項目の評価結果
- 全授業各項目の評価結果
- 「目標とする授業の満たすべき項目」と「教員が操作可能な項目」の相関分析

から、全授業各項目の平均値および過去の評価結果を目安として、各教員が「教員が操作可能な項目」のうち評価が低く「目標とする授業の満たすべき項目」と相関の高い項目を改善していく。

## 3. 方法

### 3.1 評価対象と評価者

少人数によるゼミ形式の講義・演習を除く全ての専門科目において、各授業科目を履修している全学生による授業評価を行った。今回、評価対象とした科目を表1に示す。

表1 評価対象科目一覧

科目名	受講者数	有効回答者数(%)
情報リテラシー	237	210(89)
情報リテラシー演習	237	214(90)
離散数学	237	207(87)
離散数学 演習	237	207(87)
解析学基礎	237	205(86)
解析学基礎演習	237	196(83)
情報科学序説	2142	1783(83)

### 3.2 評価方法

質問紙法（無記名アンケート）による。具体的な質問内容と回答選択肢を以下に示す。尚、質問紙の作成に関しては[安岡 99]を参考にした。

- (1) 講義の声は？  
1：よく聞こえた 2：聞こえにくかった
- (2) 講義の速度は？  
1：速すぎた 2：普通 3：遅すぎた
- (3) 教師の講義に対する熱意を感じましたか？  
1：感じた 2：少し感じた 3：あまり感じなかった 4：感じなかった
- (4) 教師は講義で学生の参加（質問・発言等）を促しましたか？  
1：促した 2：多少促した 3：あまり促さなかった 4：促さなかった
- (5) 教師は学生が講義に集中できるように配慮してくれましたか？  
1：してくれた 2：少ししてくれた 3：あまりしてくれなかった 4：配慮がなかった

- (6) 板書やスライドは？  
1：分りやすかった 2：普通 3：分りにくかった
- (7) 教え方は？  
1：うまいと思った 2：普通 3：下手だと思った
- (8) 講義の内容は？  
1：よく分った 2：だいたい分った 3：分りにくかった 4：分らなかった
- (9) この講義の内容は、あなたにとって役に立つと思いますか？  
1：役に立つ 2：役に立つと思う 3：あまり役に立たない 4：分らない
- (10) この講義の内容に興味が持てましたか？  
1：持てた 2：少し持てた 3：あまり興味を持てなかった 4：興味を持てなかった
- (11) この講義を総合的に判定すると？  
1：素晴らしい 2：良い 3：普通 4：悪い
- (12) この講義におけるあなたの受講態度を総合的に評価すると？  
1：素晴らしい 2：良い 3：普通 4：悪い

以上の選択式設問に加えて、以下の記述式設問を行った。  
 ●この講義で良かった点改めるべき点があるとすれば、それは何ですか？自由に書いてください。  
 ●この講義に関して質問・感想を自由に書いてください。  
 質問項目9については、情報科学序説のみで採用した。また、情報科学序説では出欠のチェックを兼ねるため、記名アンケートとした。

3.3 実施方法

学期最終授業の最後の15分に各担当教員が質問紙を配付し、記入後回収した。ただし、情報科学序説については、毎時間担当者が異なるので、各授業の最後に調査を実施した。

4. 結果

4.1 集計方法

データは、開講クラス毎各評価項目毎に以下の項目について集計した。

- 回答の分布
- 評価点の平均値
- 評価点の標準偏差
- 「目標とする授業の満たすべき項目(質問8~11)」と「教員が操作可能な項目(質問1~7, 12)」の評価点の相関係数

さらに、これらの集計結果を科目毎、および、全ての科目について集計した。結果は、各担当教員にフィードバックされた。ここで、評価点とは、回答をその良さに応じて100点満点に変換した得点である。その基準を表2に示す。また、記述式設問に対する回答は、担当教員が各自で参照し、次回からの授業の改善に役立てることと

した。

表2 回答と評価点の対応

質問	回答			
	1	2	3	4
1	100	0		
2	0	100	0	
3~5, 8~12	100	67	33	0
6, 7	100	50	0	

4.2 結果概要

評価対象科目の受講者数、有効回答数とそのパーセントを表1に示す。「情報科学序説」については延べの受講者数である。また、有効回答数とは、全ての質問項目に対して適切な回答が記入されているアンケートであり、それらを集計の対象とした。評価対象とした全科目に関する回答の分布を図1に示す。各科目の受講者数の違いによらず、各科目の寄与の度合いを等しくするために、各科目に関して分布のパーセントを計算し、それらを科目に関して平均している。質問9だけは、「情報科学序説」のみの結果である。総合評価(質問11)をみると、「素晴らしい」と「良い」を合わせると約50%であり、「普通」まで含めると約90%であり、学生の評価は比較的良好と思われる。他の評価項目に関しても比較的良好の結果が得られている。ただし、理解度(質問8)に関しては、「分りにくかった」と「分らなかった」を合わせて半数弱となっており、注意を要する点であると思われる。

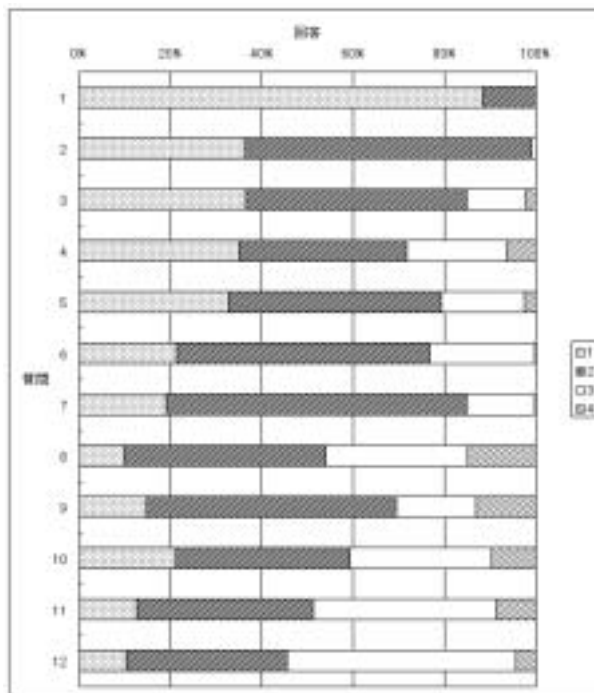


図1 全科目に関する回答の分布

表1において、「情報科学序説」以外の科目は4クラス開講であり、それらの科目に関しては、評価点の平均値は、クラス毎に求めている。「情報科学序説」については、各回毎に、評価点の平均値を求めている。図2に、それらの評価点の平均値の質問別分布を示す。質問9だけは、「情報科学序説」のみの結果である。全ての質問項目に関して、科目（クラス）によって評価の幅が比較的大きいことが読み取れる。これは、授業方法を改善すべき科目あるいはクラスがある程度存在していることを示す。各教員には、このような全体の分布と当該教員の評価結果がフィードバックされるので、その科目（クラス）の全体における位置を知ることができ、授業の改善に有効に利用することができる。

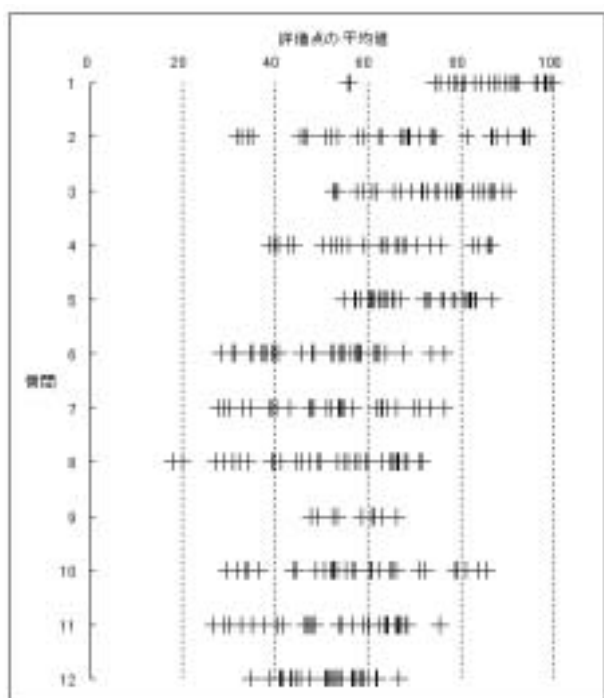


図2 評価点の平均値の質問別分布

## 5. ま と め

本稿では、集計結果の内、個々の科目（クラス）の評価のベースとなる全体としての平均値について報告した。各教員には、これらの結果以外に、当該教員が担当する科目（クラス）に関する詳細な集計結果がフィードバックされ、第2章で示した方法で授業の改善を図ることになる。

### ◇ 参 考 文 献 ◇

[安岡 99] 安岡 他：授業を変えれば大学は変わる、株式会社プレジデント社 (1999).